

# 2005年度 決算説明会

2006年4月28日

# 目次

- I . 2005年度 決算実績
- II . 2006年度 業績見通し
- III . シームレスパイプにおける  
差別化の加速

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

# I . 2005年度 決算実績

# 1. 決算概況

〈連結〉

(単位:億円)

	04年度	05年度	増減
売上高	12,369	15,527	3,158
営業利益	1,828	3,058	1,229
経常利益	1,732	2,807	1,074
特別損益	△36	254	291
法人税等・少数損益	△587	△849	△262
当期純利益	1,108	2,212	1,103
利益剰余金残高	1,158	3,005	1,847
総資産残高	19,231	21,133	1,902

<単独>

(単位:億円)

	04年度	05年度	増減
売上高	7,728	9,549	1,820
営業利益	1,264	2,223	958
経常利益	1,107	1,945	838
特別損益	15	△67	△83
法人税等・少数損益	△406	△580	△174
当期純利益	716	1,297	580
利益剰余金残高	1,313	2,249	935
総資産残高	14,578	16,565	1,986

## 2. 売上高・営業利益

〈連結〉

(単位:億円)

	04年度		05年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼	10,857	1,837	14,054	3,043	3,197	1,205
エンジニアリング	571	△ 48	390	△49	△181	△ 0
エレクトロニクス	490	12	608	23	117	11
その他	448	35	474	46	25	11
(消去)		(△7)		(△5)		(2)
合計	12,369	1,828	15,527	3,058	3,158	1,229

増減の要因 ←

	要 因
鉄鋼	原料価格の大幅な上昇の中、鋼材価格の改善、コスト削減等により増収増益。
エンジニアリング	公共投資の縮減、事業領域の絞り込み等により減収。
エレクトロニクス	半導体需要堅調により増収、増益。

<当社、小倉、直江津、住金鋼鉄和歌山 合計>

	04年度	05年度	増減
為替レート (円/ドル)	108	113	5円円安
販売数量 (万トン)	1,160	1,195	35
鉄鋼部門 平均販売単価 (千円/T)	73.6	93.7	20.1
		価格・構成差 為替差	18.2 1.9
		計	20.1

<単独>

(単位:億円)

	04年度 売上高	05年度 売上高	増減 売上高
鉄鋼	7,169	9,164	1,994
エンジニアリング	558	384	△173
合計	7,728	9,549	1,820

	04年度	05年度	増減
為替レート (円/ドル)	108	113	5円円安
販売数量 (万トン)	933	898	△36
鉄鋼部門 平均販売単価 (千円/T)	76.8	102.1	25.3
		価格・構成差 為替差	23.3 2.0
		計	25.3



### 3. 連結経常利益増減

04年度→05年度 1,075億円好転 (1,732億円→ 2,807億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	180	原材料価格他	△1,320
販売構成・価格他 為替差	2,200 15		
合計	2,395		

05/上→ 05/下 170億円好転 (1,318億円→ 1,488億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	35	原材料価格他	△20
販売構成・価格他 為替差	235 50	評価損益	△130
合計	320		△150

## 4. 特別損益

〈連結〉

(単位:億円)

	04年度	05年度
固定資産売却益	11	
投資有価証券売却益	293	478
収用に係る特別利益	—	
その他	8	
特別利益計	314	478
固定資産売却却損	△ 168	△82
減損損失	—	△31
事業再編損	△ 68	△47
PCB処理費用	—	△21
完成工事補償損失	—	△41
退職給付引当金繰入額	△65	—
災害損失	△ 34	—
その他	△ 13	—
特別損失計	△ 350	△224
特別損益計	△ 36	254

## 5. キャッシュフロー

<連結>

(単位:億円)

	04年度	05年度	増減
営業活動によるキャッシュフロー	2,773	3,119	345
投資活動によるキャッシュフロー	△120	△638	△518
財務活動によるキャッシュフロー	△2,973	△2,583	389
現金および現金同等物の期末残高	424	325	△98

## 6. 連結剰余金

(単位:億円)

	04年度	05年度	増減
資本剰余金期首残高	618	618	0
自己株式処分差益	0	—	△0
資本剰余金期末残高	618	618	—

利益剰余金期首残高	119	1,158	1,038
当期純利益	1,108	2,212	1,103
新規連結等による増加	1	0	△1
配当金	△72	△360	△288
役員賞与金	—	△1	△1
連結除外等による減少	—	△3	△3
利益剰余金期末残高	1,158	3,005	1,847

# 補足数値

## (1)金融収支

〈連結〉 (単位:億円)

	04年度	05年度
受取利息・受取配当	42	40
支払利息	△175	△122
金融収支	△ 133	△82

〈単独〉 (単位:億円)

	04年度	05年度
受取利息・受取配当	69	73
支払利息	△ 112	△88
金融収支	△ 42	△15

## (2)設備投資・減価償却費(有形固定資産)

### <連結>

(検収ベース、億円)

		04年度	05年度
設備投資 A	鉄鋼事業	556	766
	非鉄鋼事業	47	60
	合計	603	826
減価償却費 B		792	752
B-A		189	△74

### <単独>

(検収ベース、億円)

		04年度	05年度
設備投資 A		366	519
減価償却費 B		480	432
B-A		114	△87

### (3)鉄鋼事業カンパニー別売上

#### <連結>

(単位:億円)

	04年度	05年度	増減
鋼板・建材	5,714	6,933	1,219
鋼管	2,813	4,306	1,492
交通産機品	779	950	170

#### <単独>

(単位:万トﾝ、億円)

	04年度		05年度		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
鋼板・建材	744	4,563	702	5,257	△42	694
鋼管	170	1,955	172	3,112	3	1,157
交通産機品	20	650	23	793	4	142

#### (4)鉄鋼事業国内・輸出別売上

〈単独〉

(単位:万ト、億円)

	05年度	
	数量	金額
国内	573	5,138
輸出	325	4,026
合計	898	9,164

〈単独〉 輸出向先別比率

(単位:%、金額ベース)

	05年度
アジア	54
北米	12
中近東	16
欧州	12
他	6





## Ⅱ. 2006年度 業績見通し

# 1. 06年度業績見通しの前提

		05年度 実績	06年度 見通し
為替レート	円/ドル	113	115程度
全国粗鋼	百万トン	113	112程度
当社グループ粗鋼(*)	万トン	1,331	1,340程度

(\*) 小倉、直江津、住金鋼鉄和歌山を含む

## 2. 業績見通し

〈連結〉

(単位:億円)

	05年度 実績	06年度見通し		増減
		06上期見通し		
売上高	15,527	7,650程度	15,500程度	△30程度
営業利益	3,058	1,300程度	2,700程度	△360程度
経常利益	2,807	1,250程度	2,600程度	△210程度
特別損益	254	△40程度	△50程度	△300程度
法人税等・少数損益	△849	△460程度	△1,000程度	△150程度
当期純利益	2,212	750程度	1,550程度	△660程度

〈単独〉

(単位:億円)

	05年度 実績	06年度見通し		増減
		06上期見通し		
売上高	9,549	4,800程度	9,800程度	250程度
営業利益	2,223	1,100程度	2,200程度	△20程度
経常利益	1,945	1,050程度	2,050程度	110程度
特別損益	△67	△40程度	△50程度	20程度
法人税等・少数損益	△580	△410程度	△800程度	△220程度
当期純利益	1,297	600程度	1,200程度	△100程度

### 3. 売上高・営業利益

<連結>

(単位:億円)

		05年度 実績		06年度見通し				対前期	
		売上高	営業利益	06上期見通し		売上高	営業利益	売上高	営業利益
	鉄鋼	14,054	3,043	7,050 程度	1,285 程度	14,200 程度	2,635 程度	70 程度	△400 程度
	エンジニアリング	390	△49	50 程度	△10 程度	100 程度	△20 程度	△210 程度	30 程度
	エレクトロニクス	608	23	300 程度	10 程度	700 程度	50 程度	90 程度	30 程度
	その他	474	41	250 程度	15 程度	500 程度	35 程度	30 程度	△10 程度
	合計	15,527	3,058	7,650 程度	1,300 程度	15,500 程度	2,700 程度	△30 程度	△360 程度

## 4. 連結経常利益増減

05年度→06年度見通し      △200億円悪化 (2,807億円→ 2,600億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	60程度	燃料・資材	△100程度
販売構成・価格他	210程度	固定費増	△140程度
為替差	80程度	評価損益	△310程度
合計	350程度		△550程度

05/下→ 06/上見通し      △240億円悪化 (1,488億円→ 1,250億円)

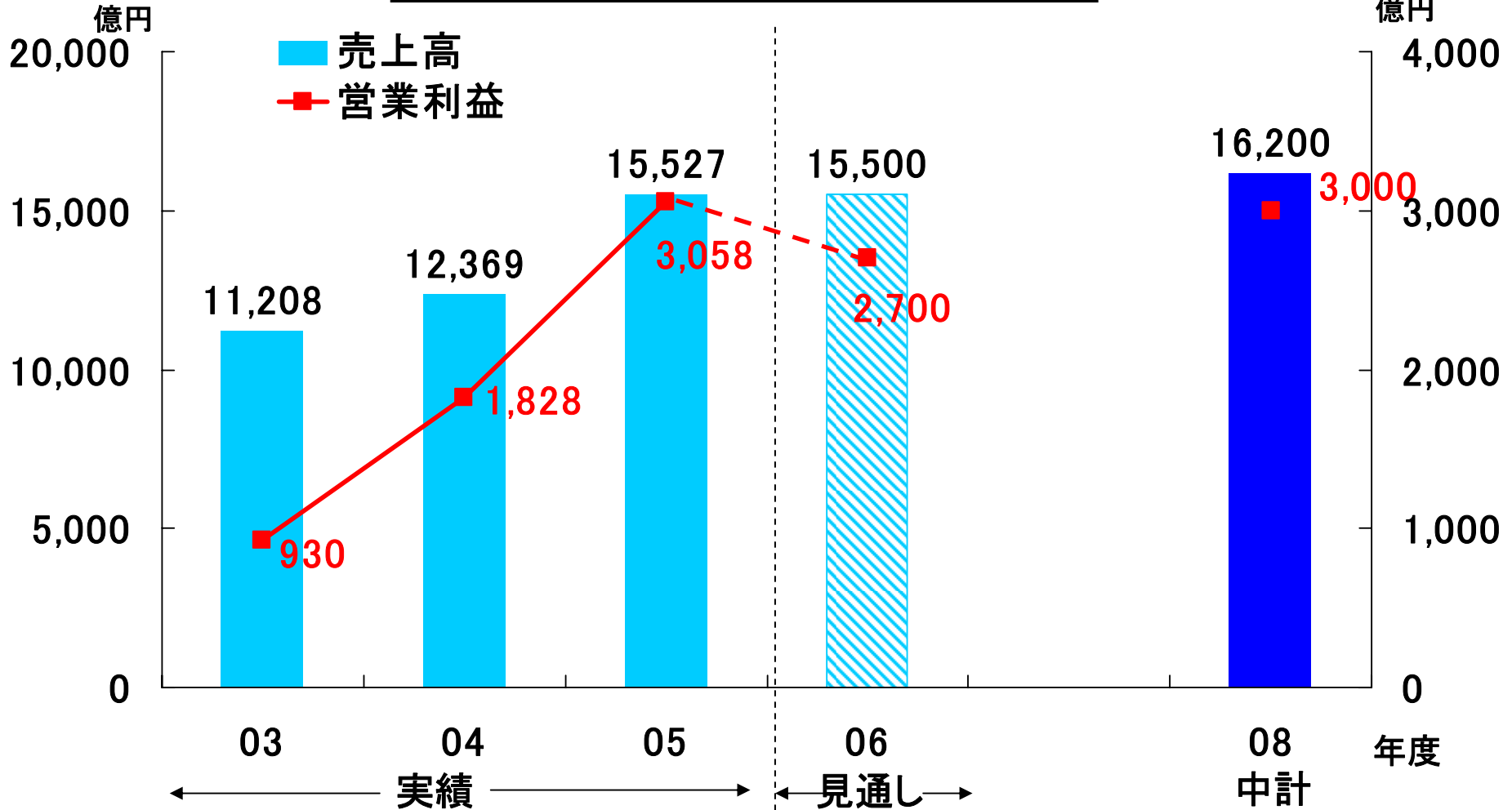
損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	10程度	燃料・資材	△50程度
為替差	20程度	固定費増	△70程度
		評価損益	△80程度
		関係会社他	△70程度
合計	30程度		△270程度

# 財務数値の推移

売上高

連結売上高・営業利益

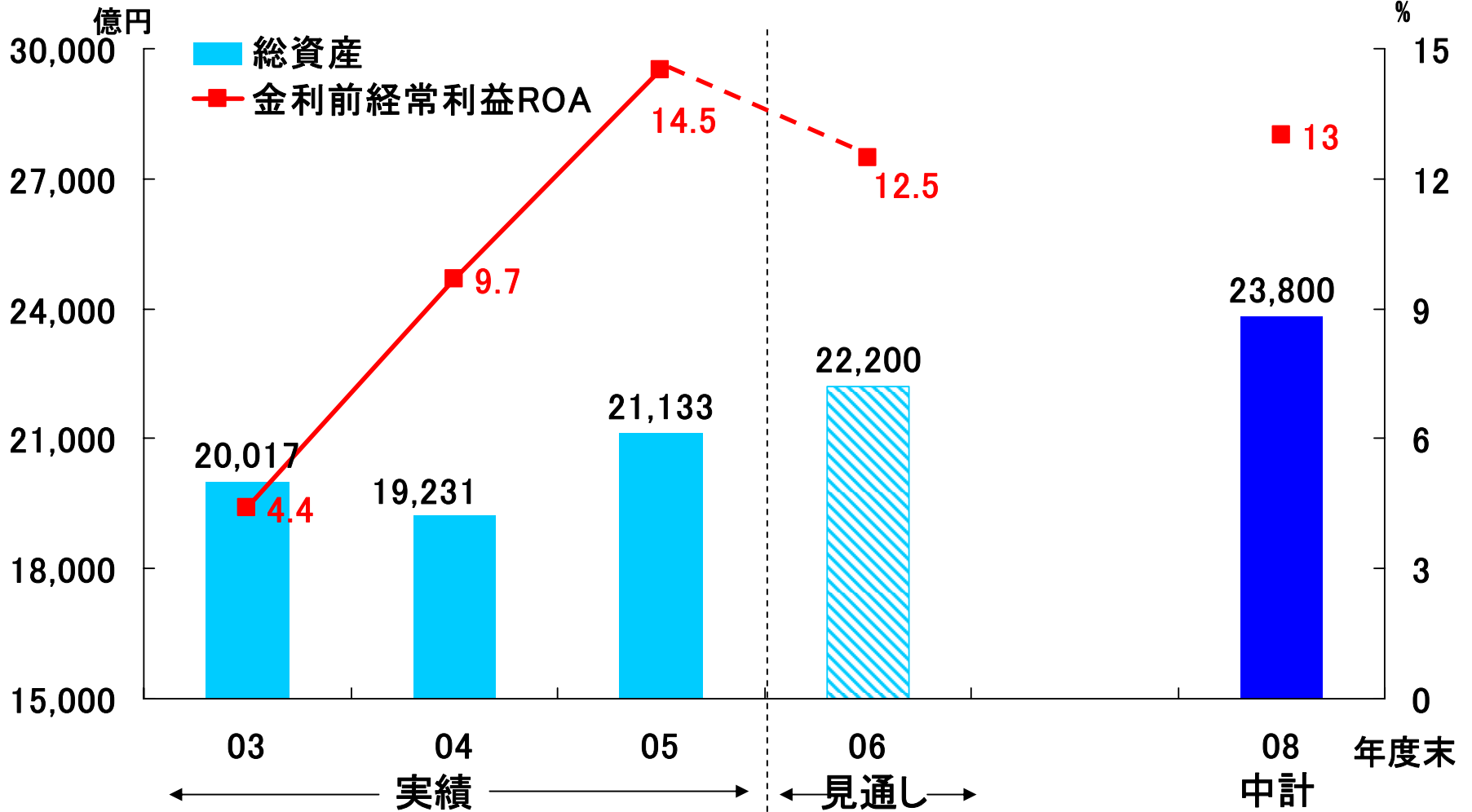
営業利益



# 総資産・ROA

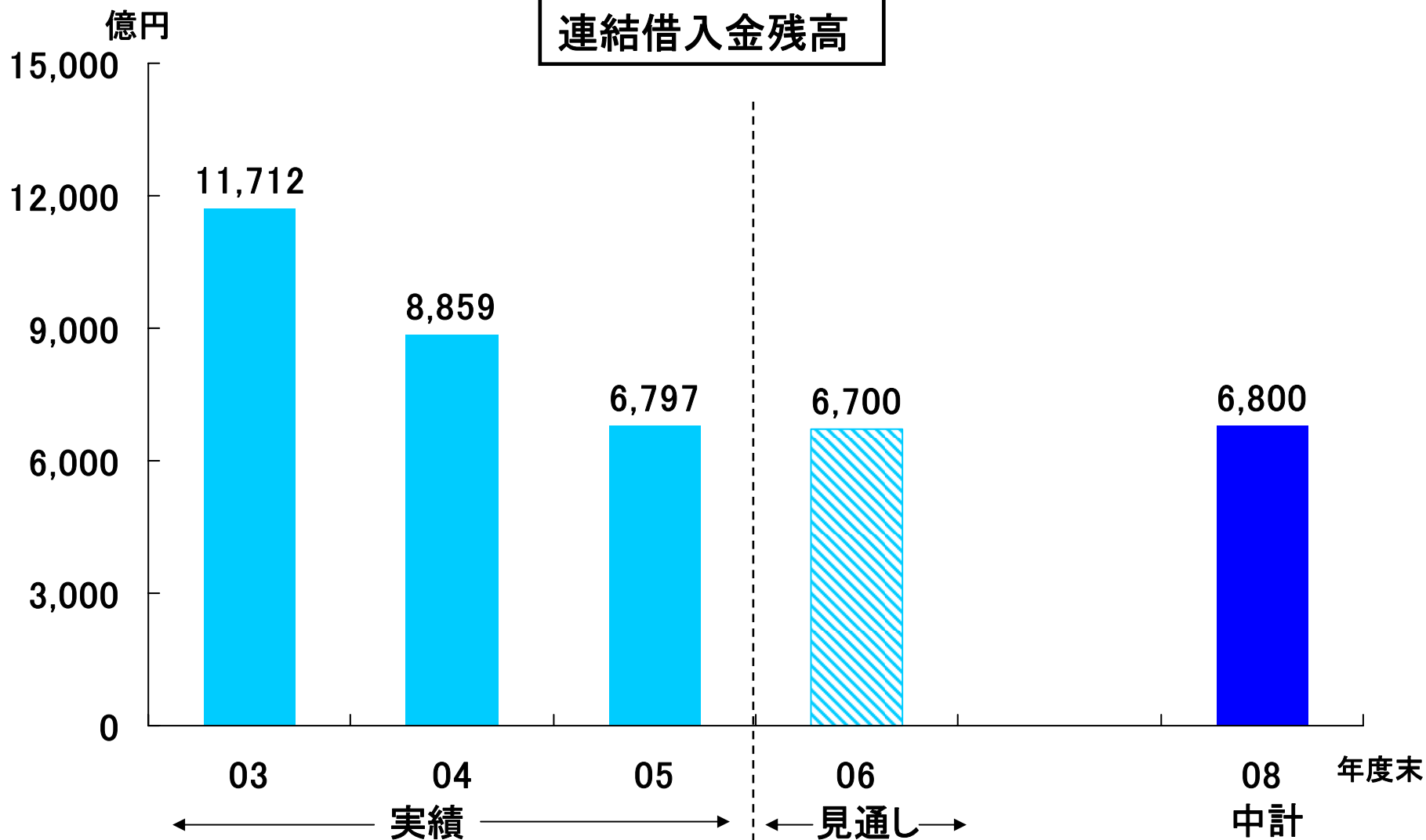
総資産

ROA





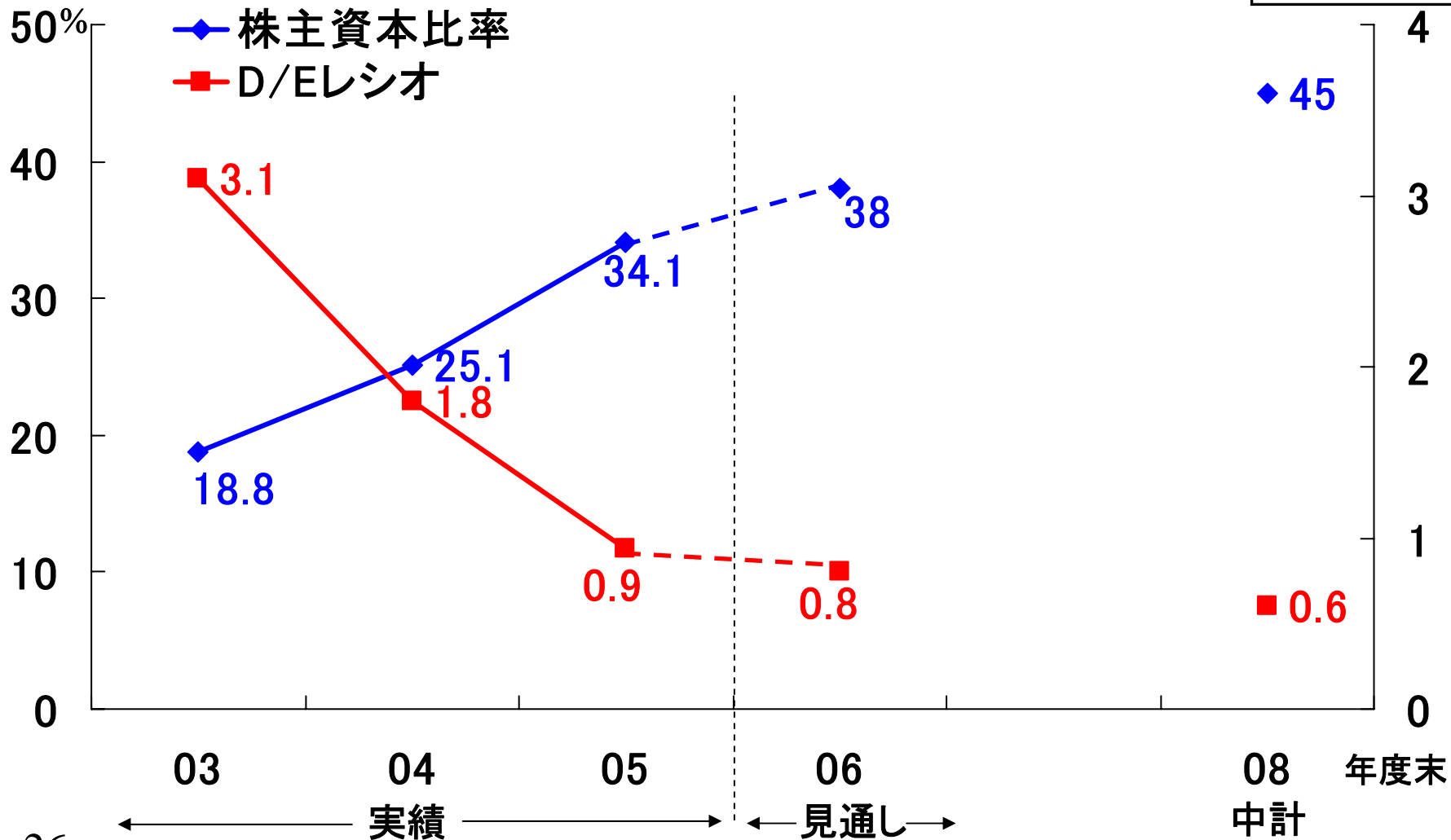
# 連結借入金残高



# 株主資本比率・D/Eレシオ(連結)

株主資本比率

D/Eレシオ



# 顧客評価No. 1の実現に向けて

最近の顧客からの主な表彰・評価の実績

受賞年月	顧客	賞名	
06年2月	トヨタ	品質管理優良賞	当社:5年連続
		技術開発賞	当社:3年連続
06年1月	ホンダ	「品質部門」優良感謝賞	当社
		「開発部門」優良感謝賞	住友金属小倉
06年3月	米国トヨタ	社長賞:Excellent Delivery Performance	ICI社:4年連続
		社長賞:Quality Performance	ICI社:2年連続
06年3月	米国ホンダ	社長賞:Quality Performance	ICI社